

GPSや加速度計の精度を評価するため、飛行するラジコンヘリ



VTOL無人機のGPS精度を確認

JAXAが大樹で実験

【大樹】独立行政法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)は15日までの3日間、町多目的航空公園で垂直離着陸(VTOL)無人航空機の実験を行った。大樹では今年6月に続き2回目。今回は同航空機に搭載する全球測位シ

ステム(GPS)や加速度計の精度を評価した。同航空機は固定翼機とヘリコプターの短所を補うものとして、JAXAが研究開発を進めている。固定翼機は離着陸に滑走路が必要で、ヘリコプターは長距離や高速飛行性能が足りない。4枚の翼にそれぞれプロペラを取り付けることでそれぞれに対応する。

今回はJAXA飛行技術研究所の3人が来町し、14日の実験準備に続き、15日にはGPSや加速度計を積んだ電動のラジコンヘリコプターを高さ3メートルで旋回に必要なデータを収集し、各機器の性能を確認した。同センターは、実験は順調に進んだとしている。(佐藤圭史)